

平成30年度 第2回足立区総合教育会議 議事録

|       |                                                                                                             |                   |                          |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|--------------------------|
| 会 議 名 | 平成30年度 第2回足立区総合教育会議                                                                                         |                   |                          |
| 事 務 局 | 政策経営部 政策経営課                                                                                                 |                   |                          |
| 開催年月日 | 平成30年11月8日(木)                                                                                               |                   |                          |
| 開催時間  | 午後1時12分～午後2時29分                                                                                             |                   |                          |
| 開催場所  | 足立区役所8階 特別会議室                                                                                               |                   |                          |
| 出席者   | 区長 近藤 やよい                                                                                                   | 教育長 定野 司          | 教育委員(教育長職務代理者)<br>葉養 正明  |
|       | 教育委員<br>小池 康之                                                                                               | 教育委員<br>浅井 えり子    | 教育委員<br>河本 孝美            |
|       | 梅島第二小学校校長<br>大塚 信明                                                                                          | 中島根小学校校長<br>武井 利依 | ふちえ幼稚園園長<br>古庄 宏吉        |
|       | 中島根保育園園長<br>増田 久美                                                                                           | 政策経営部長<br>勝田 実    | 総合事業調整担当部長<br>杉岡 淳子      |
|       | 総合事業調整担当部長<br>秋生 修一郎                                                                                        | 福祉部長<br>中村 明慶     | 衛生部長<br>今井 伸幸            |
|       | 教育指導部長<br>荒井 広幸                                                                                             | 教育改革担当部長<br>山村 研二 | 学校運営部長<br>宮本 博之          |
|       | 子ども家庭部長<br>鳥山 高章                                                                                            | 待機児対策室長<br>川口 真澄  | こども支援センターげんき所長<br>上遠野 葉子 |
|       | 政策経営課長<br>絵野沢 秀雄                                                                                            | 教育政策課長<br>森 太一    | 教育指導課長<br>小坂 裕紀          |
|       | 就学前教育推進課長<br>半貫 陽子                                                                                          | 学校支援課長<br>古川 弘雄   | 学務課長<br>吉尾 文彦            |
|       | 子ども政策課長<br>松野 美幸                                                                                            | 支援管理課長<br>門藤 敦良   | 教育相談課長<br>楠山 慶之          |
| 欠 席 者 |                                                                                                             |                   |                          |
| 会議次第  | 別紙のとおり                                                                                                      |                   |                          |
| 資 料   | 資料1 入学前における就学児童の情報収集方法について<br>資料2 調査結果一覧<br>資料3 チューリップシートの改訂について<br>資料4 チューリップシート(改訂版)<br>資料5 31年度 発達への支援事業 |                   |                          |
| そ の 他 |                                                                                                             |                   |                          |

（審議経過）

○絵野沢政策経営課長

それでは、定刻前ではございますが、全員メンバーはおそろいですので、ただいまより平成30年度第2回足立区総合教育会議を開催させていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます政策経営部政策経営課長の絵野沢でございます。よろしくお願いいたします。では、座って進めさせていただきます。

まず、幾つか事務連絡がございます。

1つ目が、会議中、会議録の作成の関係で、皆さんの発言を録音させていただいております。ご発言の際は、お手数ですがお手元のマイクのボタンを押していただきまして、終わりましたらまたボタンを再度押していただくようお願いいたします。

次の点ですけれども、本会議については公開を原則としております。この会議録についてはホームページで公開させていただくこととさせていただいております。また、傍聴も可ということで、本日、傍聴の方がいらっしゃっております。

次の事務連絡ですが、議事に入らせていただく前に、資料の確認をさせていただければと思います。お手元に資料を配らせていただいておりますが、まず本日の式次第ですが、A4の縦で3枚つづっております。ホチキスどめになっておりまして、1枚めくっていただくと本日の出席者名簿、その次の3ページ目が席次表ということでつけさせていただいております。また、本日、区長及び教育委員会の求めに応じて、関係する職員も同席させていただきますので、出席者については、この名簿でご確認いただければと思います。

続きまして、資料本体のご確認でございます。まず最初は、資料1ということで、A4

の横、ホチキスどめですけれども、「入学前における就学児童の情報収集方法について」という資料を用意させていただきました。次が、A3の横、少し大きめ、折ってございますが、資料2「調査結果一覧」というタイトルでご用意させていただいております。続きまして、A4の横ですが、資料3ということで「チューリップシートの改訂について」という資料を用意しております。次は、資料4ということで、右上を見ていただくと「改訂後」「改訂前」という2種類ですけれども、チューリップシートの改訂についてということでご用意いたしました。最後になりますが、資料5「31年度 発達への支援事業」という資料をご用意いたしました。

以上となっておりますが、お手元に資料は全部ございますでしょうか。大丈夫でしょうか。もし途中で不足に気がつきましたら事務局にお声がけいただければと思います。

それでは、これより議事に入りますが、初めに、今回の審議内容の関係者をお招きしておりますので、私のほうからご紹介させていただきます。

初めに、梅島第二小学校校長の大塚信明様でございます。

中島根小学校校長の武井利依様でございます。

ふちえ幼稚園園長の古庄宏吉様でございます。

中島根保育園の増田久美園長でございます。

なお、大塚校長、武井校長、古庄園長におかれましては、前回第1回の会議に引き続き、今回もご出席いただいているところでございます。

それでは、これ以降の議事の進行については区長に引き継ぎます。よろしくお願いいたします。

○近藤区長

よろしく願いいたします。

前回の総合教育会議におきまして、小学校入学に当たっての保護者の皆様や児童本人の不安をなるべく軽減して、安定した状態で幼稚園・保育園から小学校に移行することを目的とした就学移行プログラムの試行について発表いただきました。その中で、プログラム以外にも、それぞれの学校で就学前のお子さんの情報をきちんととるという作業については、かなり努力しているというご発表もありましたので、それではそれぞれの学校で具体的にどのような情報収集をしていたらいいのかということをもとに調査しましょうということでございましたので、今日はまず、その調査結果を担当から発表させていただきますと思います。

それと、今までチューリップシートを使って心配なご家庭から学校に相談できる体制をつくるということで提出をお願いしてきたわけですが、以前から非常に提出率が低いということが課題になっていたことと、記載の形式が中心だったものですから、やはりなかなかハードルが高いのではないかと、書きづらいのではないかと課題の指摘もございましたので、今年からは基本的に全員に提出していただくということと、記載する箇所をなるべく減らして、提出していただけるハードルを下げたという工夫もいたしました。実際に今現場でどのような反応があるのか、試行錯誤を繰り返しておりますから、今年の形が決して最終形ではございませんので、今日はその辺の現場のお声も伺いながら、また来年度以降、改正が必要な場合にはきちんと改正をしていきたいというところから話を進めていきたいと思っておりますので、まず、所管でございます支援センターげんきの支援管

理課から、各小学校での就学前のお子さんのさまざまなお困り事の方の状況の把握の方法と、チューリップシートの改訂について説明していただきたいと思います。お願いします。

○上遠野所長

こども支援センターげんきの上遠野です。私のほうから、就学前の情報収集の方法についてと、チューリップシートの改訂について、お手元の資料とあちらのスクリーンに基づきまして説明させていただきますと思います。

まず、資料1でございます。

「入学前における就学児童の情報収集方法について」というところで、1枚おめくりいただきまして2ページになりますけれども、今回、7月に各学校にアンケートという形で調査をさせていただきました。

調査の目的といたしましては、効果的な情報連携の仕組みの検討と、就学移行プログラムの改善に向けてということで行ったものでございます。調査内容は、入学前に何らかの支援が必要な児童の情報収集方法等ということで、指導要録であるとかチューリップシートの提出については今回除いております、学校独自で取り組まれていることということでまとめさせていただきました。全69校から回答いただいているものでございます。

調査結果の概要です。3ページでございます。全69校からご回答いただきましたけれども、全体ではそれぞれ複数やられているところもあるので、153項目ほど挙がっていたのですが、やはり一番多いのは、園への訪問や電話による聞き取りというところが23%、スクリーンでちょうどブルーのところなのですが、一番多いという状況です。また、学校行事への参加というあたりと

か、幼保小連携という取り組みについても多く行われています。あと、模擬授業というところで、7%と多くはないですが、学校で実際に授業を行って児童の状況を把握するという取り組みが幾つか見られたところです。

次の4ページですけれども、各校の取り組みの数です。こちらにつきましては、今回、初めての調査であるため、細かく項目を指定しての調査という形にはしていません。どんな取り組みをしているか私どももわからないところがありましたので、各校から挙げていただいたものを集約しております。したがって、後ほどご覧いただく各校の取り組みの一覧表の中で、実はうちもこんなことを本当はやっているというものがあるかとも思うのですが、あくまでも今回はその調査のときに挙がってきたものという集約でございます。ですので、多いところでは8つ・7つ・6つというところがありますけれども、1つ・2つという報告をいただいたところが、それぞれ25校ずつという状況でございます。

5ページですが、取り組みの内容です。関係機関からの聞き取りが一番多かったところですが、こちらについては訪問や電話という両方がございまして、また、指導要録を受領の際にお話を伺うということも行われております。あとは、児童の学校行事や就学時健診などでの観察、それから模擬授業というところが主なところかと思います。

次に、資料2でございます。こちらがA3の大きなシートですけれども、こちらをスクリーンに映しますと細かすぎてわからないので、お手元の資料をご覧いただければと思います。

全体69校のそれぞれ取り組みの数の多い順からこちらのシートに並んでいるもの

でございます。一番取り組みの数の報告が多かった梅島第二小学校につきましては、後ほど校長先生から内容を伺えればと思っております。

聞き取りなどはそれぞれ丸が一番ついていますが、幾つかの学校で模擬授業を、学校に実際にお子さんに来ていただいて、学校の授業のような形でやっているという取り組みが見られているところでございます。こちらについて、中島根の校長先生からもあわせてご報告いただければと思います。

こちらの資料ですけれども、右のほうには小学校1年生の在籍の数と、就学相談などを利用されている方、また、チューリップシートの提出数なども記載されておりますので、こちらは後ほどご確認いただければと思います。

続きまして、資料3でございます。チューリップシートの改訂についてです。

「現状と課題」というところでまとめさせていただいておりますが、提出率につきましては、足立区全体の新規に就学されるお子さんの8%というのが、この4月に1年生になられたお子さんの提出数でございます。実は、この8%でも年々増えてきておりまして、5年くらい前は4.8%くらいだったと思いますので、毎年着実にじわじわと増えてきておりますが、全体ではこういう数という状況です。

記述式の項目が多く、保護者が書きづらいというところで、お手元に資料4ということで、改訂前と改訂後の資料がございます。こちらのかわいらしいウサギやリスの描いてあるほうですけれども、こちらが改訂前のものでございまして、こちらは左側が保護者の方が記入する欄、右側が就学前に所属しているらっしゃる保育園とか幼稚園でご記入いただくという状況でした。こちらについては全

て実際に書いていただかなければいけないというところで、なかなか出していただく方にも抵抗感もあったかなと私どもも思っていたところでございます。

今回の改訂といたしまして、こちらのチューリップの絵が描いてあるほうが改訂版となりますけれども、今回は、まず左側のほうにつきましては丸印をつけていただくという形で、簡易な形にさせていただいたものです。もちろん、具体的な様子や配慮していただきたいことなどは書けるような形にさせていただいております。また、右側のほうも、今回、就学前機関については記載欄をなくしております。ですので、こちらは全部保護者の方に書いていただくというところで、就学前機関については、どこに通われているかというところだけはご記入いただくということをお願いするものでございます。

これまでのチューリップシートは、ご案内は全ての年長さんの親御さんにお渡ししていたのですけれども、実際にこのチューリップシートは、必要と思われる方だけというか、保育園や幼稚園などで「出したほうがいいんじゃないですか？」みたいな後押しをさせていただいて出していただいたという経過でございました。ですので、なかなか提出が伸びていかないというところもございましたので、今回は新しいチューリップシートについて、この10月に全保育園・幼稚園をお願いしまして、保護者の方にお配りいただいたという状況でございます。また、各学校には、ぜひ出していただくようにという働きかけをお願いしている状況です。ですので、今後どういう形で提出されてくるのか、あるいはどのように記載されて出てくるのかというところを私どもも注目しておりまして、その結果によって、また学校現場のお話なども伺いながら、また今後の改訂についても検討し

ていくという流れになるかと思えます。

私からの資料4までの説明につきましては以上でございます。

○近藤区長

現場への提出の時期はいつごろになっているのですか。

○上遠野所長

1月・2月に学校説明会がございます。そのときにご提出いただくということです。就学時健康診断の場合には、必ずしもその学校に行かれるお子さんばかりではないので、ですから正式に自分の子どもはこの学校に行くということが決まりましてから出していただくという形で、就学説明会のときにといいことでお願いしています。

○近藤区長

提出は年明けということですが、各幼稚園・保育園等にはもう既にお配りしているということですか。

○上遠野所長

はい。もう既にお願ひして、配っていただいております。

○近藤区長

わかりました。ありがとうございました。ということで、まず、各校の就学前の情報収集の取り組みについて、資料2を見ていただくと、今日は梅二の校長先生がいらっやっていますけれども、梅二の取り組み数8個から始まって、1つという学校まで。また、同じ1つでも、いろいろなメニューがあるわけです。ただ今回は、例えば聞き取りというところでも、入学予定の方に全て聞き取っているのかとか、聞き取りの対象について、ど

ういう方に絞って聞き取っているのかということまでは調査しておりませんので、その辺にちょっと不備がございました。その辺のところも含めて、梅二や中島根に伺っていききたいと思うのですけれども。

それではまず、梅二の大塚校長先生から、区内で取り組み数としては最も多い8個でいろいろ情報収集されているということですが、その中でも効果的だなと思われるものですか、また、こういうところに力を入れているということも含めて、取り組みの実績のある学校としての現場の声についてお話いただければと思います。

#### ○大塚梅島第二小学校校長

私は、昨年度昇任で梅島第二小の校長になりました。それまでの様子はほとんどわからない状況で行きました。低学年の子どもたちの様子を見て、これはどこまで聞き取っているのだろうか、把握しているのだろうかというところから疑問に感じ、教員に聞き取ったり、副校長に聞いたりしていたのですけれども、それほど深くなかったというところが実際でした。

私の考えとしては、経営方針の一つとして、一人一人の子どもを全教職員で見守り育てるということを掲げていますので、それを浸透させる上でも聞き取りをしっかりと行いたいと思いました。そして聞き取りとは別に、子どもたち一人一人をしっかりと見たいということで、昨年度2月の入学説明会のときに、急遽お子様も同伴で来ていただいて、体験入学を行っている間に、保護者には入学説明会を行いました。それによって教員が子どもたちをしっかりと見取れました。この子はちょっと落ち着かないところがあるとか、そういったことを、学級編制の参考資料等にもさせていただきました。

若手教員が今、足立区では増えている中で、低学年のしつけをできる教員が減ってきています。本校では現実的に、低学年1～2年生に、担任で2人しかいない主任教諭を、今年は当てています。そういったことで、しっかりと低学年から6カ年の教育をしていきたいという方針を出しました。今年度はさらに増やして、11月、今度の土曜日からなのですけれども、月1回入学体験会を行って、子どもたちの様子を全教職員で見取るという取り組みを行っていくことにしました。

私としては、校長としての危機管理の一つと捉えています。教員のほうも、去年の入学体験を行ったことによって子どもたちが覚えてよかったという声もありました。土曜日の午後にやるのですけれども、土曜授業の後に毎月1回入学体験会をして、入学してくる子どもたちも安心、保護者も喜ぶ、教員もいろいろな情報を自分の目で見られる。それを組織的に、来年度に生かしていきたいと考えています。就学時健康診断に47名来たのですが、そのときに案内を配付し、33名から申し込みがありました。全部で5回実施するのですが、数名何日か欠席ですけれども、ほぼ全員がぜひ参加したいという申し込みがございました。本校ではとりあえず、その結果を見てやっていきたいと思っています。

あと、チューリップシートにつきましても、就学時健康診断を本校は区内で一番最初に、10月11日に行いました。その際に、「げんき」のほうに学校から配付させていただきたいとお願いし、就学時健康診断で学校がお願いの一つとして、全家庭に提出してほしいと、私の先ほどの経営方針をお伝えして協力をいただいております。既にもう何件か出てきておりますけれども、また課題等につきましては後ほどお話ししたいと思います。

以上です。

○近藤区長

ありがとうございました。

つまり、いろいろメニューがございますけれども、一遍にやるわけではなく、まず最初に入学体験会。そこで様子を見ながら、気になったお子さんですとか保護者の方には、例えば電話で連絡をとるとか面接をしたりという形に進んでいくというイメージでよろしいのでしょうか。

○大塚梅島第二小学校校長

はい。園の聞き取りは全員分行います。昨年度も全員分行いました。来ていただくとか、行くとか、少ないところは電話で聞き取るところを行いました。

○近藤区長

その時期はいつごろですか。

○大塚梅島第二小学校校長

年明けですね。

○近藤区長

そうしますと、今年の体験会の後になるわけですね。

○大塚梅島第二小学校校長

3月まで行いますので、同時進行の時期もありますけれども、基本的にはやりながら、見ながらということです。やはり、園の先生と我々教員で見る視点が違うというところもあると思いますので、そういうところはしっかりと、百聞は一見にしかずではないですけども、お子さんを見ながら今後考えていきたいなと思っています。

○近藤区長

その体験会というのは何回出てもいいのですか。それとも、お子さん1人1回に限っていらっしゃるのですか。

○大塚梅島第二小学校校長

全5回やるのですが、1回は入学説明会の2月に、これは全員にお願いしています。あとの4回につきましては任意ですが、ほぼ全家庭から全部出席するというご回答をいただいています。

○近藤区長

そうすると、体験会が5回できる。かなり本人も保護者の方も、精神的にも肉体的にもさまざまな準備ができるような、そこで4月を迎えられるような形で――

○大塚梅島第二小学校校長

そうですね。1回だけだとやはり子どもも緊張して自分を出せないというのがありますが、毎月1回やっているとだんだんと慣れてきて、その子なりの姿が見えてくるかなと思います。そして保護者も学校に来ることになっていただきたい。来てはいけないところではないので、ぜひたくさん足を運んでいただくということで、いいかなと思います。あと、入学前の相談など、我々管理職が入って、体験入学している間に保護者とお話をするような機会も設定しております。

○近藤区長

体験会のプログラムはどんなものなのでしょう。

○大塚梅島第二小学校校長

体を動かすものと、学習的なもの、両方、特別支援のコーディネーターが計画して、今度の土曜日に1回目、とりあえず実施してみ

ようということをやっています。

○近藤区長

時間的には何時間くらいなのですか。

○大塚梅島第二小学校校長

1 時間です。60 分です。

○近藤区長

ありがとうございました。

それでは、武井先生も同じようにご発表をお願いいたします。

○武井中島根小学校校長

中島根の武井でございます。

前回も参加させていただきまして、この調査のこともわかっておりまして、模擬授業についてということをお話がありましたので、本校は、今、園長先生がお見えになっている中島根保育園に出向かせていただいて、そして学校そのものではなくて、少し砕けた形の体験のひとつを持たせていただいています。考え方としては、子どもさんが学校に来て緊張した中というよりは、自分たちが自分らしくいられるところに先生が来たという場で、学ぶ場面はこういところだよというところを教えていきたいということをやっています。

模擬授業の中身は、言われたことを繰り返すことなどで、書くことはほとんどないですけども、お勉強に向かう姿勢というところをお話しします。実施に向けては、教員のキャラクターにもよるのですが、迫り方というのはそれぞれいろいろな形がありますが、学校は楽しいところだよというところを学んでいただければなという思いであります。

そして、ほかのことですけれども、移行プ

ログラムを去年もやらせていただいたので、こういう形で迫るといいなということを今年はどうにか取り入れられないかなと考えておりまして、今大塚先生がおっしゃったような形で、移行プログラムの中身を少し砕いたようなものを模擬授業の中に取り入れられたらいいなと考えているところです。これから実施に向かってやっていきたいと思います。

そして、本校は給食体験会をしまして、そのときには本校に来てもらいます。1 学年がどこかに出かけているときなので、社会科見学とかで大体私は引率に行っているのですが、なかなかその場面を私が直接見ることはできないのですが、学校でチームでいろいろな教員がその様子を見させていただいて、お子さんたちの様子を、給食という、1 年生とのかかわりの中で自分を出せる部分があるといいなという場面を設定しています。でも、1 年生にとっては大変いい体験なので、去年まで自分は反対の立場であったのに今度は自分たちがお世話をしようということで、そういう世話をしてくれるということも体験してもらって、学校に来たら甘えていいんだよということも伝わるいいなと思って、給食体験会を行っています。今年度は中島根保育園さんと島根いちい保育園さんの両園から来ていただきまして、1 クラスを半分ずつに分けて4 教室展開で行いました。園長先生にも来ていただいたので、何か補足がありましたら、どうぞお願いいたします。

それから、本校の特色としては、入学説明会のときに児童指導資料というものを、実際には多分ほかの学校は入学してから出されることが多いと思うのですが、その資料をすぐにお渡ししまして、ほかのいろいろな書類とともに早く出していただいているのです。2 月の半ば過ぎくらいを締め切りにして出

していただいています。そうしますと、例えばチューリップシートの提出率はそれほど多くなくても、その中でご自身のお子さんのことでちょっと気になっていることとかを書いてくださるので、そこから実際に直接その保護者の方と連絡をとる。そういう電話などの聞き取りはしています。ですので、園をまとめてということももちろんするのですが、個別に提出していただいたものをもとに中身を確認することができるように、早く提出していただいています。ですので、今回のチューリップシートは、ある意味その助けになるなと思って、私としてはありがたいチューリップシートになっていると思います。

○近藤区長

模擬授業ですけど、入学予定のほぼ全てのお子さんが参加されるということですか。

○武井中島根小学校校長

そうではないです。全員ではないです。中島根保育園さんから大勢来てくださいます。いろいろな園に出向いていくことも必要なとは思っていましたが、大塚先生のお話を聞いて、学校に来ていただくというのはいいアイデアだなと思っています。

○近藤区長

ただ、そこで知り得た情報というか気になる状況を先生方がご覧になって、例えばクラス編制ですとか、担任をどうするかといったことに生かしていかれているのだらうと思うのですが、模擬授業を行った後の振り返りについてはどのように考えていらっしゃいますか。

○武井中島根小学校校長

実際に行った教員とディスカッションして、そしてそれを全体で共有するという形なのですが、ご指摘のように、全員本校に入学する子を見ているわけではないので、そのところは弱いと思います。

○近藤区長

わかりました。ありがとうございました。

それでは、幼稚園・保育園の園長先生方に、チューリップシート、まだこれからかもしれませんけれど、とりあえず配付になって、先生方のお考えですとか、もしくはお渡しになって保護者の皆様方の反応とか、その辺のところを教えていただけたらと思うのですが、ふちえ幼稚園の古庄園長、いかがでしょうか。

○古庄ふちえ幼稚園園長

チューリップシートにつきましては、配付してまだ反応が見えません。ですので、実際、これは提出が終わって、来年度になって結果が出てくことかなと思います。ある園の保護者が言っていたところでは、「今までは、チューリップシートは課題があるお子さんが提出するものだった。それをみんなが出す。うち、そんなに問題ないんだけど」と言って戸惑っているという声もあったようです。今までのチューリップシートとこれは意味合いが違いますから、今までのチューリップシートは全員出してくださいというものではなかったですね。ですから、その辺が違うので、今度は初めての試みですから。

内容については、私が見させていただく限りでは、いい内容だな、これだったら保護者の方も記入ができて、自分のお子さんに対する思い、または子どもに今後配慮してほしいことを伝えられるのではないかなと思います。

○近藤区長

それと、今、学校現場のほうからの情報収集のいろいろなお話を伺ったのですが、園側としては、これをやっていただくと非常に心強いなど、いろいろあるけれどもこれを一番重視してほしいというリクエストがあれば、教えていただけますでしょうか。

○古庄ふちえ幼稚園園長

今回の入学前の就学児童の情報収集の調査ですけど、これは幼稚園・保育園から小学校へ上がる子どもたちがスムーズに上げられるための活動と、それからもう一つは、入学してくる子どもたちがどんな子どもたちかを捉えるということがごっちゃになっていますので、少しこれは整理しなければいけないと思います。

先ほど大塚先生がおっしゃった試みは大変素晴らしいと思います。私どもの幼稚園でも、どんな子どもたちが入ってくるか、その前の情報は一切ありませんので、いろいろな方法をもって入学する子どもたちの情報を得る努力をしております。

こんなふうに言ったら失礼かもしれませんが、今まで小学校さんは、自分の目で子どもたちの情報を得ようと余りなさっていませんでした。実際、私どもの園にも聞き取り調査ということで来られますけれど、全部のお子さんについて聞き取り調査があるわけではありませんし、何人も子どもがそちらへ上がるのに聞き取り調査に来ないなど。来てくださるのが当たり前だと私どもは思っているのですが、それもいけないのかもしれません。従来そういうものだったので、お待ちしてもなかなか来ないのでお電話したら、「行く考えはない」といったこともありましたが、そういうところで学校によって大分違いがある。電話でということもあります

けれど、面識がない方からお電話をいただいて「何々小学校の何々です」と言われても、すぐそこではお答えできない。これはある園のお話ですけど、「そういうことなので、お答えできません」と言ったら、その後何も音沙汰がなかった。私どもの園では、1人とか2人とか、または遠方の学校へ転居していかれる方もいらっしゃるの、そういう場合はこちらからその学校に電話をして、「その先生はおりますか」と言って呼んでいただいてお伝えするというのを今はやっております。そういう状況があります。

○近藤区長

どうもありがとうございました。

増田園長、いかがでしょうか。まずチューリップシートのことについて。

○増田中島根保育園園長

チューリップシートの件については今まで、課題のあるお子さんとか、保育園でこれを学校に知っていてほしいと思うお子さんを保護者と話し合っ、そして保護者の願いと私たちの配慮というところで学校にお伝えするという形でやっていました。

今回このチューリップシートが改訂されたときに、そうすると、保護者が今お子さんをどう捉えているとか、保護者の方の学校への願いというものは直接的ダイレクトに学校には挙がりますけれども、そのお子さんを客観的に見た、お母さんの捉えている願いに対して保育園がどういうふうにしてきたとか、どうしたらいいかという部分がちょっと欠けてしまうのかなと思った部分があります。ただ、書きやすさといったところでは今回のほうが、お母さんも書こうとか書きやすいとか伝えたいという気持ちが湧いてくるといいますので、今回は、家庭での様子

を学校にお伝えするというところではいいなと思うのです。ただ、保育者が客観的に見たお子さんの姿をどのように今後伝えていくかというのは私たちの課題で、今までチューリップシートで伝えていた部分をどここのところで補完していくかというところを考えていかなくてはいけないし、そのことについて親御さんとどうコミュニケーションをとるかというところも以前よりしっかり深めていかなくてはいけないなと思いました。

○近藤区長

大変重要なポイントをご指摘いただいたと思います。どうもありがとうございます。

また、小学校側から情報収集についてどんなアプローチがございいますか。

○増田中島根保育園園長

先ほど武井先生がおっしゃられていたように、うちの園には学校の1年生の先生に来ていただいて、そして模擬授業をやりながら子どもの様子を見ていただいたり、クラスの雰囲気というか集団での様子を把握して持ち帰っていただいたりとか、給食体験に伺ってということもやりながら、子どもたちの様子とか、学校に行ったときの子どもたちの変化、保育園にいたときと学校に行ったときに見せる顔や姿の違いを私たちが見て持ち帰って、その先の保育に生かしていくという形ではやらせていただいています。ただ、先ほど古庄先生もおっしゃっていたとおり、子どもを見ながら、このお子さんはこうでこうでというのを学校の先生と語り合ったりとかお伝えしたりという場面がなくて、どうしても私たちが赴いて「こういう状況です。こういうことがありました」とお伝えするのですけれども、今大塚校長先生がおっしゃったように、お子さんの様子を見ながら、お子さ

んの姿について語り合うことが必要だなというのは、お話を聞いて感じたところです。

○近藤区長

どうもありがとうございました。

ということで、学校によって大分差があるということはここで明らかになってきているわけですが、そういったところも踏まえながら、教育委員の先生方に、就学前の学校現場と幼稚園・保育園との情報のあり方について、今の実態調査から出てきたことへのご感想でも結構ですし、ご自身がやはりこういうことを大事にしてもらいたい、こういうことをやめてもらいたいということがあればご意見をいただきたいと思いますが、葉養委員からよろしいですか。お願いいたします。

○葉養教育委員

ちょっと風邪を引いておりまして、お聞き苦しいかと思いますが、時間も限られておりますので、ちょっと気づいた点だけ。

幼稚園とか保育所から見た子どもの姿と小学校の先生が見た子どもの姿のずれみたいなものは——保育要録をつくっていますよね。そのコピーを多分学校に送るようになっていると思うのですが、あれが一種の、幼稚園の先生方が見た子どもの姿であって、小学校の先生は送られてきたものを公文書として見ている。ただ、それだけだと表面的になりがちなので、チューリップシートみたいなものをつくるということを考えられたとお聞きしたのです。だから、そういう意味で言うと、チューリップシートというのは、できるだけ生の声が聞けるといいと思うのですが、非常に回収率が悪いというのは、なかなか出すほうにしてみると抵抗があるというか、何のために出すのかと。そういう保護者側の理解を得る工夫みたいな点で課

題があるのかなと。

特に言語の問題ですね。私も中国の留学生を受け入れているのですが、日本語で日常会話はできるのですが、解釈の仕方は相当ずれるのです。だから、本当の意味で心の底からわかったというところまで持っていくのは相当時間がかかるのです。だから、もしかすると、ある私立の幼稚園に伺ったときに、その副園長先生が、「うちの幼稚園には日本語のコミュニケーションができない子が山のようにいる。表情を先生のほうでつくって何となく読み取るくらいしかコミュニケーションをとれない」とおっしゃっていたのです。ですから、チューリップシートの言語というか、役所全体の問題だろうと思うのですが、例えば新宿区役所へ行くと、中国語、韓国語、英語、それから場合によってはスペイン語とか中南米の言葉も入っている看板などもある。そういう時代になってきているのかなと。だから、特にそういうお子さんが多いところは、中国語とか英語関係の表記を入れるようなものも考えていかないといけないのかなと思いました。

3点目は、小学校の先生に本当のことを言ってしまうと、小学校では児童指導要録をつくりますので、評定をするのです。行動の記録とか学習の記録欄があって、行動の記録欄というのは、先生がある意味で主観的に書いていくわけです。だから、書く側にしてみると、そういうものに対するマイナスの影響が出てくると困るという、そういうあたりもよく見ていかないと、一応チューリップシートの回収率が高まったとしても、本当の情報がそこに出ているかどうかというあたりは気をつけないといけないのかなと。

ちょっと長くなって申しわけございません。

○近藤区長

ありがとうございました。

一つは、チューリップシートの多言語化、外国語版のものをつくっていくということですが、所管のお考えはいかがでしょうか。

○上遠野所長

確かに今いろいろな国の方がいらしていて、学校現場でもいろいろな外国の、日本語がわからないお子さんが増えているということも聞いていますので、必要なことだと思います。今年度は間に合いませんでしたけれども、宿題としてこれから検討させていただいて、進めていきたいと思っています。

○近藤区長

ありがとうございます。

では、小池委員、いかがでしょうか。

○小池教育委員

梅島第二小学校と中島根小学校の模擬授業というのは、とてもいい取り組みだなと感じています。新1年生を迎えるに当たって、学校側が自分の目で子どもたちを見るというのはとても大事なことで、また、学校の教員として子どもたちをどう判断していくか、どのように見きわめていくかというのはとても大事なことで、それは本当にいい取り組みだなと。今後広がっていくべき取り組みなのではないかなと感じました。

また、チューリップシートも、一面だけではなくていろいろな面から子どもたちを見ていくという意味では、保護者の子どもの見取りがここにあらわれているという意味ではとても大事なことでと思っています。

ただ、これはだんだんなれてくればいいことだとは思いますが、前回までのチ

チューリップシートは保護者が学校に持ってきて、なおかつ、また日を改めて校長と面談することになっているのです。チューリップシートを書くまでに、幼稚園や保育園の先生と保護者で、お子さんについてかなり煮詰めた段階でチューリップシートを書いていたと思うのです。これからは、なるべく回収率も上げて、いろいろなお子さんの情報を得ようということで、チューリップシートを全員出していくということがだんだん目的になっていくと思うのですけれども、そのときに注意しなくてはいけないのが、裏側に「シートをもとに、必要に応じて学校と面談を行うことがあります」と書いてあるのです。そうすると、自分の子どもは特に——普通という言い方はおかしいですけれども、何も面談にかかわる問題はないのではないかと考えていて、例えば学校から呼び出されるというか、面談しましょうというときに、入学前から学校と保護者の関係がこじれないようにということがとても大事なので、チューリップシートを渡すときに、これからのチューリップシートのあり方もよく説明して保護者に渡すのが大事なことなのではないかなと感じております。

○近藤区長

どうもありがとうございます。  
浅井委員、いかがでしょうか。

○浅井教育委員

私、実は先月、支援学級の連合運動会を見させていただきました。正直言って、全員のダンスを、本当にみんながきちんとできる姿を見て、支援学級の子でも時間をかければきちんとできるのだなということをすごく実感したのと、やはり教員だけではなく介護のサポートをする方たちが物すごくきちんと

サポートしている実態を見て、素晴らしいなと感じたのです。

チューリップシートは本当にすごく書きやすくなっていますけれども、親が変なことを書いたら普通学級には入れてもらえなくて正直に書かないこともあるのではないかなという懸念もあると思うのですけれども、適正な指導というのが決してマイナスではなくて、その子のためにはプラスになるということ、逆に本当に親に知ってほしいなとすごく感じます。支援学級、支援教室に行くことがマイナスではないというイメージを親に認識してもらえるような環境をつくってほしいなと思います。

○近藤区長

ありがとうございました。  
河本委員、いかがでしょうか。

○河本教育委員

この調査の結果一覧を見まして、私が個人的に感じていることなのですが、確かに、梅二さんのように8個丸をつけた学校と、1個しか丸をつけていない学校と、かなり学校によって数の差が出ているというのは一目瞭然なのですが、ただ、いろいろな学校を回らせていただいたり、かかわってきた経験から見ていると、例えば「行動観察(来校時)」というところは、就学時健診のときに全教員で目配りをしているはずなのです。なのに、丸がついている学校、丸がついていない学校と、ここだけさまざまに出ているということで、この情報収集の方法がはっきりわかっていないので、結果だけを見ていると、この丸の数で閲覧されてしまうと誤解が生じるのではないかなと。校長先生たちの受け取ったときのこの調査の意識が、こちら側の「げんき」さんからの意図が伝わっていないのでは

ないかなと思います。

それはその調査のことについてなのですが、先ほどから皆さんがお話ししているとおり、やはりこのチューリップシートを全家庭に提出してもらうということには、保護者の理解をしっかりと深めていかなければいけないというのは、私もそのとおりだと思います。ただ、ある程度発達障がいとはいえず、その子によって症状に差がかなりありまして、1年生になってから気づくケース、2年生になってやっとご理解いただけるケース、または、恐らく学習障がいであろうと思われるでもなかなか支援につながらないケース、そういう幅を考えたときに、全家庭になるべく少しでも気づいたところを挙げてもらう仕組みとして全員に配るというのは、私はいいことだと思います。ただ、支援してほしいのは実は親御さんではないかというケースは多々ありますので、そういったシートが挙がってくるということにつなげるためにも、例えば足立区では衛生部さんの「あだちスマイルママ&エンジェルプロジェクト」であるとか、妊産婦さんからの支援がかなり充実して入って、保健師さんがお母さんに対する支援をしていたり、例えば生活保護や就学援助の世帯には、今度は福祉部さんのほうからワーカーさんが訪問に行ったりして、例えば幼稚園にいるお子さん、今度1年生に上がるお子さんで家庭的な問題を抱えているお子さんの情報というのはたくさん持っていられると思うので、何とかそこを上手に、学校へのスムーズな移行+家庭への支援と学校へ通うお子さんへの支援がつながるような仕組みづくりというのが、難しいでしょうけれど、必要なのではないかなと思っています。

○近藤区長

その辺のところがつながっていないというのは、事業の区民評価でも厳しいご指摘を受けているところなのです。当初、妊産婦さんとか出産直後はかなり手厚く家庭訪問をしたりしながら、ただ、それが一定程度の時期が過ぎると、次の事業につながるところがちょっと弱いのではないかというご指摘はいただいているのですが。

今日は衛生部長が来ていますから、衛生部長、いかがでしょうか。

○今井衛生部長

今ご指摘がありましたように、ASMAP等、手厚くやらせていただいているところがございます。

衛生部のほうでは、「げんき」と協力しまして、今、乳幼児健診を受けていただくときに心理相談を受けられるようにしていただいたりとか、あと、保健センターで親御さんの自主グループがあるのですが、そこに相談のための専門機関から人を派遣していただいたりということで、なるべく早期に気づくという、足立区の発達障がいに対する施策に寄り添っていくような形が必要だと考えております。そこはますます厚くしていきたいと思いますが、次の「つなぐ」という段階で今課題があるということについては、また他の所管とこれから連携を深めていくための施策をつなげていかなければいけないと思っていますので、その辺は宿題とさせていただきますが、いずれにしても発達支援に関しては、学校の段階では全ての学校で特別支援教育も進んでいくような段階になっておりますので、ここについては衛生部としても力を入れてご協力させていただきたいと思っております。

○近藤区長

今いただいたご指摘を踏まえながら、よろしく願いいたします。

それと、「行動観察（来校時）」に丸がついていない学校に対して云々という話がありましたが、これは逆に言うと、もしかすると、学校側でそういう意識を持って来校時の行動観察を行っていない学校があるということではないでしょうか。

○河本教育委員

例えば、この学校はそうではない、この学校はそうだという判断はもちろんできないですけれども、丸がついている数を見たりとか、それから例えば、冒頭に区長がおっしゃったとおり、「聞き取り（園への訪問、電話）」というところでは、全員にやっているか個別にやっているかというところでも意識に差があるというお話があったので、全項目で調査に対する意識の差があるのではないかと考えたところです。

○上遠野所長

今の件に関しましては、私ども調査した側の責任でもあると思うのですが、申しわけないのですが、個別にこういう項目でということをしかり示して調査をしたものではないので、学校さんの中で余りにも当たり前に、例えば就学時健診のときの観察であるとか、そういうものは当然にやっているのだけれども、今回のこの調査に該当するものだという認識がされないまま回答が出てきているケースもあるかと思しますので、恐らくこの調査のリストを実際に見ていただくと、「これならうちもやっているよ」みたいなのが実はあるだろうと私どもも思っております。ですので、今回は本当に粗々の調査で大変申しわけなかったのですが、どんな取り組みをやっているのかということ把握する

ための調査ということで、本当にそのあたりがきちんと把握できていないのはおわび申し上げます。申しわけございません。

○近藤区長

おわびだけでは困るのです。今後どうするかということが大事で、チューリップシートも新しくなったことですから、年明けで、提出率ですとか、またそれぞれの学校の負担感ですとか、シートの内容についてのいろいろなご意見も伺う中で、もう少しこれが誤解のないように、例えば聞き取りにしても、悉皆でやっているのか、どこかで拾い上げてきた情報の対象者だけを聞き取るのかとか、もう少しそれぞれの状況がわかるような調査をやっていただかないと意味がありませんので、ぜひ来年度はそういったことも、今日お越しの先生方にもアドバイスいただきながら、横一線でいいのかということもあるのです。もしかすると、この時期ではこれをやって次の時期ではこれをやるというような、時系列的なことも必要になってくるかと思しますので、単に丸をつけてもらうだけの単純な調査では状態が浮き上がってこないということもありますので、ぜひその辺のところを配慮して、よろしく願いしたいと思します。

武井先生、先ほど「チューリップシートについては後ほど少し」とおっしゃっていましたが、いかがでしょうか。

○武井中島根小学校校長

では、私から。

先ほど、後ほど申し上げたいなと思ったことを園長先生が言ってくださったので、私もそう思っていました。つまり、園の側のその子を通して考えていらっしゃることは、これだけでは足りないなというのは感じている

ので、それは学校の努力、また、園との連携ということでフォローしていかなければいけない。そういう意識を私たち学校の校長が持たないといけないなと思っているところです。

○近藤区長

ありがとうございます。

大塚先生、何かございますか。

○大塚梅島第二小学校校長

チューリップシートに関しては、先ほどあったように、今回は園の記載が全くないというところで、保護者の見目で我が子という部分だけですので、これでますます園への聞き取り・情報収集をしっかりと学校が行っていかなくてはいけないなと感じています。

ちょっと考えたのは、これと同じものを園がそのお子さんについて記録したらどうなるのだろうと。実際に、我が子が「かして」「いれて」「ごめんね」「ありがとう」を自分から言うことができるというシーンを本当に見ているのか。保育園へ預けている忙しい保護者の方がどれだけ把握しているのだろう。それだったら、「1回、園と一緒に相談しながら、ここを記録してみましようか」というスタイルでもいいのかなと。こちらも陰で園に聞くのは忍びないので、できれば「保護者も園もこういう見解です」という形でこの印がつくとありがたいと思います。

実際に今、何通か出てきているのですけれども、全て「できる」に丸がついているご家庭が多いです。就学時健康診断のチェックのときに、ちょっと落ち着きがないかなと思った子でも「できる」となっている。そういうことも考えると、効率よく情報を集めるためにも、ここの部分は少し考えたいなと私自身は思っています。ですから、今回のシートに

関しては、学校の聞き取りをいかにうまくやるかということが課題かなと思っています。

あとは、面接をするというところで、線引きが非常に難しくなってきたなと思います。全部の家庭から出て、先ほどありましたけれども、保護者はそういう意識はないけれども、こちらは面談したいというご家庭にどうアプローチしていくかというところは、今年実際にやってみて成果とか課題を出していきたいと思っています。

以上です。

○近藤区長

どうもありがとうございました。

ということをお願いしていて、学校でかなり取り組みに差があるということ、また小池先生からも、最低限これは大事だよねという話が出ている中で、取りこぼしがあるところもあるようですけれど、一定レベルのレベル合わせをしていく必要はあるのではないかなというのは今日のお話の中で思うわけですけれども、教育長、どうでしょうか。

○定野教育長

今回は、特に保護者の見取りという点でチューリップシートを強化した。ただ、そこに客観的なことを盛り込めないというのは、これは保護者も見ますから、難しいのだろうと。本当はそれを指導要録とか保育要録の中に書かなければいけないのだけれども、これも公開されなければいけないので、ここにも書けない。このジレンマがあるので、最後は、大塚先生や武井先生もおっしゃるように、きちんとした聞き取りをやらないといけないなということが今回非常に明確になったのではないかなと思います。なので、先ほどの調査をどのくらいやっているのかというこ

とも大事ですけど、「この学校でこういうことをやっているのだったら、うちでもやってみようか」ということを広げないといけないうことが一つ。

もう一つは、実は、幼稚園・保育園に通っている子どもたちはいいのだけれども、そうでない子どもたちになかなかこれが及ばないということなのです。さらに、そういう中に障がいの程度の重い子がいたりとか、なかなか手のかかる子がいて、そういう情報が早く知りたいのだけれども、実は就学説明会のぎりぎりのところになっている。これをどうするのかということも、先ほどの衛生部の情報も集めて、あるいは「げんき」が持っている就学相談のデータも集めてやるということが非常に重要だなということを2点、思いました。それはしっかりやりたいと思います。

○近藤区長

よろしくお願いいたします。

そこで、そういったご議論も踏まえながら、31年度についてこのように取り組みたいという、予算があることですので、あくまでも担当の所管の考え方ということですけども、聞いていただいて、ご質問ですとか、またさらに、こういうことをやったらどうだというご要望をいただければと思います。お願いします。

○上遠野所長

それでは、お手元の資料5になりますが、2019年度の支援事業というところでまとめてありますが、既に今年度から行っているものなども当然ですが含んであります。

まず、「気づく」というところですけども、先ほどお話にも出ておりましたが、乳幼児健診時の心理相談、あるいは保健センター

での出張相談については、既に今年度から実施しているところでございます。また、障がいの理解というあたりも含め、発達支援に関しては保護者向けのミニ講座について、これから行うところでございます。

「つなぐ」というところで、先ほどのチューリップシートの改訂を挙げさせていただいております。ただ、こちらは先ほど各委員の皆様からのご発言がありましたように、今回どういう形で出てくるのか、これから年度末に向けて検証させていただいて、また先ほどの取り組みについての追加調査などもさせていただきながら、どんな取り組みをやらせていて、そしてこのシートがどんなふうに出てきて、それが実際のお子さんの評価に対してどうなのかというあたりを検証させていただきたいと思います。

就学移行プログラムは前回のこの会議でご報告させていただきましたが、2018年度につきましては、梅島第二小学校と中島根小学校、それから鹿浜五色桜小学校でやらせていただくことで今段取りをしておりますが、19年度につきましては、それを12校程度に、ご協力いただけたところに拡大していきたいと思っております。

「支える」というところでは、小学校につきましては特別支援教室を今年度で全て設置しておりますが、来年度から中学校への設置を開始いたしまして、19年度・20年度の2カ年で全校設置に向けて取り組んでまいります。それにあわせまして、特別支援教育コーディネーターの配置は既に行っていると思いますが、改めてこの特別支援の分野につきまして、特に研修なども充実していきながら、学校での支援のレベルアップに努めていきたいというところでございます。

主なポイントは以上のとおりでございます。

○近藤区長

前回の就学移行プログラムのときに小池委員から、実際に多動ですとか、このお子さんほどプログラムの対象にしてほしいというお子さんが対象になっていないのではないかというお話がございましたので、これから対象校を増やしていく中で、こういったお子さんを対象にすることがこの移行プログラムに一番効果があるのかとか、さまざまな検証をしていただかないと、ただ単に校数を増やしたからいいということではないというところは押さえていただきたいと思います。ですが、どういうふうに担当としては考えていただいているのでしょうか。

○上遠野所長

本日こちらにも前回取り組んでいただきました2校の校長先生にいらしていただいておりますので、今回は事前にいろいろな情報をお互いに交換しながら、このプログラムにご参加いただける方をしっかり掘り起こしていこうといえますか、しっかり把握していきたいなと思っています。前回は、ご協力いただける保育園・幼稚園と学校との関係で、本当にごく少ないお子さんしか取り組めなかったというところもございますが、今回は両校で模擬授業なども取り組んでいただいておりますので、その中から特に、ぜひ参加したほうがいいと思われるお子さんについて、ご協力いただきながら抽出してやっていければというところがまず1点かと思います。

○近藤区長

ありがとうございます。発達支援の事業ということで、ごく限られた分野の事業をリスタップしているわけですが、これも含めて、今日、教育委員の先生、また、ご

出席の保育園・幼稚園・小学校の校長先生も含めて、何かご要望・ご意見、「ここはやっぱりもう少し拡充したほうがいい」とか、「これよりこっちだよ」というところがあれば、感想も含めてで結構ですから、時間も来ておりますので本当に1人一言ずつになると思いますが、何かあればいかがでしょうか。挙手していただいてということで。——葉養先生、お願いします。

○葉養教育委員

一つだけなのですが、幼稚園と小学校の連携ということで言えば、うちの大学は幼稚園免許状と小学校免許状を両方取らせるのです。今度は幼稚園実習も必修化して、ちょっと幼稚園が足りなくなったものですから、足立区内の15園くらいに、古庄先生のところも受け入れてくださったのですけれど、張りつけることになって、だから、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学とステージになっているのです。それをできるだけぶつ切りにする形の取り組みというのが教員養成とか保育士養成でかなり大きな課題で、小学校の先生に大学に来てもらって授業をやってもらって、大学の教師に幼稚園に行ってもらって授業をやってもらってというのを試みたことが筑波大であるのです。だから、全面実施をいきなりはできませんけれども、できるところ、小学校の先生で幼稚園の免許を持っている先生はいると思いますので、逆に幼稚園の先生で小学校の免許を持っている先生もいるだろうと。少し試行的にそういう試みもやり始めたらどうかなと私は思うのですけれども。

○近藤区長

ご提案が出ましたが、教育長、どうでしょうか。

○定野教育長

古庄先生も、実際に幼保小連携でいろいろなことをやられているので、それをご紹介いただければいいのかなと思ったのですけれども。

○古庄ふちえ幼稚園園長

ごめんなさい、もう一度お願いできますか、葉養先生。

○葉養教育委員

つまり、今は横割りになっているので、縦に串刺しにするプログラムはないのかと。だから、小1プロブレムに対する問題というのは、横に、幼稚園は幼稚園、小学校は小学校となっていてところの溝みたいなのを埋められないかという発想から出ていると思うのです。そうすると、現職の教員が、小学校で勤務している人が幼稚園に行く、幼稚園で勤務している人が小学校で授業をやるという体験を絡めるとすごく効果的なのです。大学でやったことがあって、そういうのを試行的にでもできないのかなと。

○古庄ふちえ幼稚園園長

今現在でも、小学校の先生が幼稚園や保育園に来て体験をしたりとか、幼稚園や保育園の職員が小学校へ行って生徒と交流したりとか、そういう活動が――

○近藤区長

先生のところではやっていただいているということですか。

○古庄ふちえ幼稚園園長

私のところもやったこともあるのですけれど、幼稚園と小学校は授業をしている期間

が同じなのです。ですから、なかなか交流が難しいのです。保育園の先生と小学校はよくやっていたらいいですね。そういう難しさはあるので。それぞれ担任を持っておりますので。

○定野教育長

ごめんなさい、急に振ってしまって済みません。

ただ、必要性は非常に感じているので、私も、保育園・幼稚園と小学校をグルーピングして、幼保小の連携事業をやろうということで、これからも協力に努めていきたいと思います。

○近藤区長

何か来年度以降、ございますか。小池委員、何かございますか。

○小池教育委員

実は二つあるのですが、一つは子育てサロンの保護者向けミニ講座というところで、実は発達支援の必要なお子さんは、例えばほかの人だと小さな音でもその子はすごく大きく聞こえて、よく子どもが耳をふさいで「うるさい!」と言っていたり、それから、例えば明るいところ、まぶしいところへ出ると、日光が痛くて疲れてしまうのです。それから、子どもによっては、よく「人の顔や目を見て話を聞きなさい」と言うのだけれども、実はそれが負担なのです。それで疲れてしまったり、場合によっては不登校になったりとか。そういうことで、実はそういうお子さんたちは、例えば記憶力がよかったり、問題を解決する能力が高かったり、パターン化するのがとても上手だったり。そういう子どものよさも伝えながら、そういう私たちがふだん気がつかないような、親でもなかなか気がつかない

いようなところをミニ講座で伝えてあげて、自分のお子さんのちょっとした「嫌だ」とか「疲れた」とか「座りたい」とか言っている行動を見取れる力を保護者向けのミニ講座で——もうやっていただいているのかもしれませんが、ぜひそこら辺をお願いしたいということ。

もう一つは、療育機関なのですけれども、そこら辺は、そういうお子さんの数に応じて受け入れるだけの体制ができているのか、できていないのか。これからそういう目で保護者が見られるようになれば、今度はそういうところにお子さんを預けて、なるべく早い段階で訓練したいと思うのは親の常だと思うので、ぜひそこら辺は31年度に向けて充実していただけたらと思います。

○近藤区長

療育機関というと、あしすとのほうになりますか。

今の現状と、ここの将来設計についてお考えを述べていただけますか。

○中村福祉部長

福祉部でございます。

現状でございますけれども、療育をやっている機関として、あけぼの学園など、民間もありますけれども、足立区では障がい福祉センターで幼児の療育をやってございます。現状として登録者も1,000人以上を超えておりまして、ただ、見込みとしては、6学年というか、それくらいを仮に、大体7%くらいの出現率と言われていることからすると、2,000人くらい潜在的にいるだろうと考えております。そのうち1,000人が通っておりますけれども、ただ、実際には通所の定員というのは枠がございまして、外来での指導ですとか、親子でグループになって指導を

受けているというのが実態で、月1回を目指しているのですけれども、ご家庭によっては2～3カ月に一遍ほどこか療育を受けられていないのが今の実態でございます。そういった意味で、そういう療育施設を区でも増設していきたいところではございますけれども、31年度に向けて拡大できるかどうかというところは、場所の選定とかをしながら、なるべく早い時期に導入していければと考えているところでございます。

○近藤区長

実は、10年前の区長就任当初から、議会からは発達支援センターの設置というのは各会派からご要望が出ておりました。実際に、「気づく」というところ、小池委員からご指摘いただいたように、気づいたところで連れていく場所がなければということですよ。ですから、一定程度の規模の施設が必要になるということを考えれば、土地の確保をどうするかということもございますし、また、区内何カ所も設置できるわけではありませんから、交通の利便性等を考えたときに駅から近いところとか、いろいろ考えながら、そうは言っても先延ばしにできる課題ではございませんので、ご承知かどうか、今エリアデザインといって、区内各地で開発の計画が進んできております。その中で何とか、こういった発達支援を支える公共の機関、必要性は十二分に認識しておりますので、確かに31年度開設というのは難しい話ではございますが、決して私どもも諦めているわけでもありませんし、計画的に開設に向かって準備は着々と進めていきたいと考えております。

あとはよろしいでしょうか。——古庄園長、どうぞ

○古庄ふちえ幼稚園園長

先ほどの小学校からの聞き取りのことなのですが、学校によってさまざまでありまして、またその時期もさまざまなのです。もう3月の中に入ってからそういう問い合わせがあって、「聞き取りに行きたいのだけれど」と言われてもなかなか私どもも、3月は卒園式があったりして年長の職員はなかなか対応がしづらいのです。でも、お子さんのことですから受けることになるのですけれども。ですから、そういう時期とか、方法とか、そういったものを小学校さんで統一していただいたらいいなとすごく思っております。

○近藤区長

園側のご要望としては、いつごろからいつごろにあればというのはございますか。

○古庄ふちえ幼稚園園長

やはり2月いっぱいまでにはと思います。

○近藤区長

遅くとも2月末までですね。

○古庄ふちえ幼稚園園長

はい。

○近藤区長

ありがとうございます。

学校側としてはいかがでしょうか。

○武井中島根小学校校長

そうですね。2月末をめどには必要かなと思います。3月がお忙しいのは、もちろん承知しておりますので。

○古庄ふちえ幼稚園園長

これは、クラス編制だけのことではないのです。多分、3月ごろに聞いてくるところは、

クラス編制でどうしたらと思って聞いてくるのかなとは思いますが、そうではないので、もう少し早い段階からやっていただいたらいいのではないかなと思います。

○武井中島根小学校校長

組織で対応するという意味で、2月からですね。

○近藤区長

学校によって入学のお子さんの人数が違ったりする状況もありだと思いますが、現場からこういうお声も出ているので、教育委員会としても、それぞれ学校に、時期的なものですか、聞き取りについてどういうお子さんを対象にするとか、調査の前到来年度に向かって一定程度のルールといいますか、その辺のものを校長会を通じて発信していただければよろしいのではないのでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、時間が参りましたので、2回目の会議はこの程度とさせていただきます。

ありがとうございました。